

2023/6/5（月）

朝の礼拝

聖書 マタイによる福音書 7章 24-27節（新約聖書12頁）

「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。」

礎

日本最古の木造建築の法隆寺を支えているのは「礎石」、神社にある地震を鎮める石を「要石」、お城を支えるのは「石垣」、英和女学院の「定礎」は今も正面玄関横に残っています。古今東西、建物を支える堅固な礎は「石や岩」で造られてきました。

礎となる石や岩は目に見えないことが多く、穏やかな日常生活では意識しません。ところが雨が続き、川があふれ、風が吹き続けると砂の上の家は流されます。ですからイエスは岩が家を支えるように、悲しみや困難にある人の心を支えるものを岩にたとえたのです。

イエスは自らの言葉が岩ではない、言葉を聞くだけなら砂だと言っています。イエスの言葉を行う者が岩の上に家を建てた人だと言っています。ルカでは岩の上に家を建てた人は「地面を深く掘り下げ」とあり、イエスの言葉を行うことの困難を具体的に伝えています。

イエスの言葉を行うとは主なる神を愛すること、祈ることです。聖書に耳を傾け、目に見えないところで支えられていることに気づき、感謝を献げ、他者の悲しみや痛みを覚えて祈り、自分の願いではなく主に委ねることです。

(しばらく黙想しましょう)

わたしたちを支えられる主よ、あなたは、あなたの言葉を聴く弟子たちを代表して、シモン・ペトロにケファ「岩」というニックネームをつけられました。英和女学院は主なる神であるあなたを愛し、隣人を自分のように愛するため何事をなすにも祈りをもって始め、祈りをもって終え、あなたと共に過ごし支えられています。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン